

えがおのまつり

日進月報

第4号

発行…きょうされん第49回
全国大会in大阪 実行委員会
編集責任者…きょうされん
大阪支部 関口 耕一郎

大会の顔になるものが
が決まりました！

大会キャラクター

キャラクター選定は100点を
超える応募があった中から、事務
局のメンバーと、そこに公平さを
保つために荻野和彦さんに入って
もらいました。

*荻野さんは兵庫県を中心に活
躍され、「北はりま障がい者美術公
募展」の審査員などもされていてい
ます。

どの作品も甲乙つけ難く全部
選びたいと思いつつ、3つを選
びました。他の大会でキャラクタ
ーは1つを選びます。多くても2

つと聞いています。3つ選んだの
は大阪が初めての様です。

選ばれた3つの作品はどれも大
阪を連想する作品です。最初の作
品は「シークレット」、後日の発
表です。たこ焼きが船にたくさん
載っている「②タコヤキッズ」。
大阪のいろいろなものが入り交ざ
る文化を表している「③OHサカ
ヤン」。そしてロゴ。これからグ
ッズになったり、ポスターに描か
れたり皆さんが目にするものがた
くさんあると思います。3つの作
品の活躍を楽しみにしてくださ
い。でも、他の作品たちも、どこ
かで活躍してもらいます。

大阪大会はみんなが活躍する事
を目指します。それは作品も同じ
です。これも大阪に来てもらう楽
しみの1つになると思います。



① 『シークレット』
キャラクター



② 『タコヤキッズ』
東山自立センター



③ OH サカヤン
よさみ野障害者作
業所

ロゴマーク



第49回全国大会

大会趣意書とテーマ

大会を行う上で、もう一つの顔
になる趣意書とテーマが完成しま
した。何度も会議を重ねて、みん
なの想いを詰め込んだものになり
ました。本当に皆さんの議論を
重ねていいものができたと思いま
す。最初の生みの苦しみを経験す
る場面になりました。そうやって
作った趣意書とテーマを持ってこ
れからの広報活動や資金集めなど
が本格的に動き始めます。

改めて『①平和の大切さ』『②
障害のある人も安心して暮らせる
優しい社会の構築』『③大阪独自
の良さの発信』などを大会を通じ

て広げていきたいと思っています。
様々な人との繋がりを広げてみん
なで作る『きょうされん第49回
全国大会in大阪』にしていきたいま
す。*大会趣意書は1番最後に乗
せています

大会テーマ

『ええやん 自分らしくいこ
や つなごう えがお、いの
ち、そして平和』

大会テーマソングを作る

既に大会を盛り上げる企画をい
ろいろと考えています。その中の
1つがテーマソングです。いろい
ろなところで歌って、もちろん大
会当日もみんな歌います。その
テーマソングを皆さんの声を集め
て作る予定にしています。

ここにもみんなの想いをたくさ
ん詰め込みたいと考えています。
大切に思う人や出来事、仕事や趣
味なんでも良いので好きな事を思
った言葉を送ってください。もし
て出来上がった歌と一緒に歌いま
しょう。詳しくは募集要項を確認
してください。

スタッフの紹介

企画部・部長

田槇 公則

(社会福祉法人信貴福祉会)



大阪大会「えがおのまつり」をほんまもののえがおのまつりにするために、事務局はじめ、担当者のみなどで、アイデアを出し合いながら、検討と具体化にむけて力を合わせ頑張っています。

前回20回大会の時は、まだ新人時代で、全く何が何だかわからない状態でした。今は、作業所で得た経験を今大会に活かし、参加した人たちが「楽しかった、面白かった」「大阪大会に来てよかった」と思ってもらえる企画を作って行きたいと思います。
皆さんも一緒に大会を盛り上げていきましょう！

「きょうされん第49回全国大会in大阪 えがおのまつり」
大会開催趣意書

きょうされんは1977年、障害のある人の願いを中心にして、誰もが安心して暮らせる社会をめざして16か所の共同作業所が集まり結成されました。現在、全国42支部、1900の事業所が加盟し、3万人に迫る賛助会員に支えられています。大阪支部は153の事業所、約3000人の賛助会員に支えられています。

さて、きょうされん第49回全国大会を大阪で開催するにあたり、3つの点について考えたいと思います。

第1に平和の大切さについてです。ロシアによるウクライナ、イスラエルによるガザ侵略は一向に解決せず、それどころか暴力は広がっています。大国は自国の利益を優先し、多くの弱い立場にある人たちが犠牲になっています。日本においては世界で唯一原爆が投下されたにも関わらず核兵器廃絶の願いは軽んじられ、戦争ができる国に逆戻りしています。改めて平和の中でこそすべての人の権利が守られることを確認し、加害責任や民族差別など日本が過去に犯した事実と向き合い、平和を実現していくことを訴えます。

第2に障害のある人たちのおかれている状況です。2014年に日本が批准した障害者権利条約にはすべての障害者の人権、平等、尊厳が謳われています。しかし現状は、不十分な所得保障、依然として続く家族介護、障害者事業所の人手不足などにより、障害のある人が人としてあたりまえの生活を送ることができない状況にあります。加えて物価の高騰が追い打ちをかけています。

能登半島の被災地の復興は後回しにされ、高齢者、障害者が取り残されている状況にも、社会的弱者に冷たいこの国の現状が表れています。

そのような中、2024年7月最高裁で優生保護法が違憲であったと断罪されました。優生思想に基づく差別偏見の根絶は、日本の障害のある人の人権を守るための大きな課題であり、全面的な解決が求められています。

第3に大阪ならではの課題があります。大阪は古くは「水都／商都」と呼ばれ、商業の街として発展してきました。しかしながら時代の変化の中で貧困と格差が広がり、それに対抗して社会保障制度の整備、拡充を求める運動が活発に行われてきた歴史と実績があります。

障害分野では2005年「自立支援法反対」の一致点で多くの団体が連携して、全国に先駆けて大きな運動を作ってきました。大会を契機に共同の取り組みを更に発展させ、充実させることが重要です。

以上を踏まえ、「第49回きょうされん全国大会inおおさか えがおのまつり」を開催します。笑顔に包まれた大阪らしい大会をめざし、障害のある人、家族、関係者など、様々な人が活躍しながら、つながりを強め、手話言語の国際デーの日に行われる大会の成功を障害者福祉の発展に繋げていきます。

多様性を認めあい、ひとり一人の尊厳を大切にすることを訴え、格差と分断が進む社会を変える力としていきましょう。平和の中でこそ命も権利も守られることを確認し、だれもが大切にされる社会を実現する取り組みを広げていきましょう。

※9月23日は「手話言語の国際デー」／2017年12月19日国連総会で決議され、「手話言語が音声言語と対等であることを認め、ろう者の人権が完全に保障されるよう国連加盟国が社会全体で手話言語についての意識を高める手段を講じることを促進することとされています」(全日本ろうあ連盟HPより)